

BC2クラスはセクション1で4連続ベストと波に乗った北海道の松波克知/尼子祥一組がオールスター初優勝を達成。



北海道王者、松波克知ランサーがオールスター初優勝



内ラリー界のシーズンエンドを飾るJMRCオールスターラリーフェスティバルが2019年10月19～20日に秋田県で開催された。

東北でオールスターラリーが開催されるのは8年ぶり。前回も主催を担当したどんぐりスポーツカークラブ秋田が今回もラリーを仕切った。どんぐりのラリーと言えばグラベルをたっぷり走り込めるラリーとしてすっかりお馴染みで、JAF東日本、JMRC東北の両シリーズには、欠かせない一戦となっている。

数年前からどんぐりのラリーをバックアップしてきた大館市が今回もホストタウンで、ニプロハチ公ドームがスタート&ゴールとなった。19日には、『秋田犬の里』で、セレモニアルスタートが行われた。

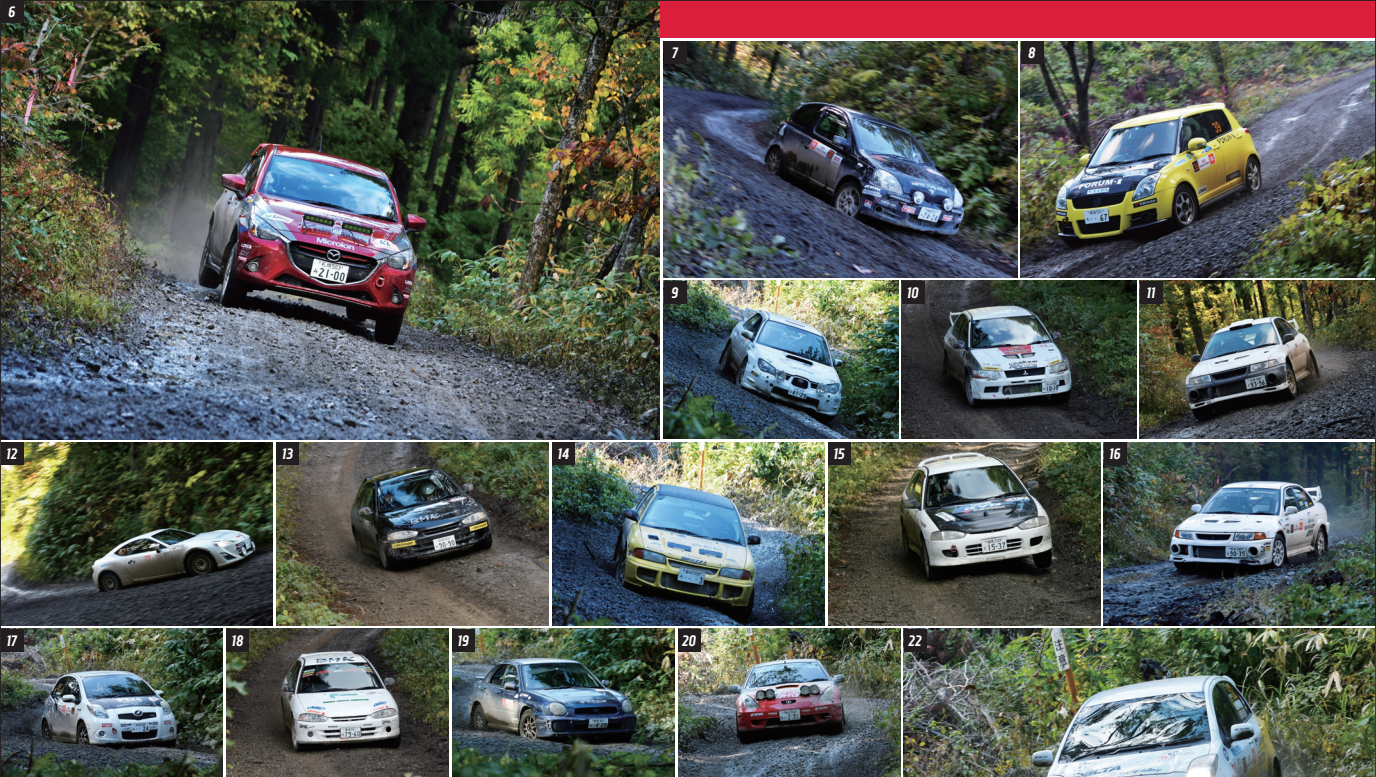
ラリーはまず午前中のセクション1で、2.2km、6.9kmの2本のステージを2回ずつ走行。午後のセクションは2本とも逆走となり、それぞれまた2回走る。2.2kmのステージは往復ともほぼ同じ距離を走るが、6.9kmは午後の逆走では1km距離が延び、7.8kmとなる。このス

テージは、全体のタイムにも少なからぬ影響を与える舗装が所々にあるのが特長だ。ラリー当日は天候に恵まれたが、レギが行われた土曜は雨が降ったため、路面コンディションはセミウェットからのスタートとなった。

18台が参加したランサー、インプレッサが集う最速のクラス、BC-2クラスは優勝候補の1番ゼッケン、関東の上原利宏/佐瀬拓野組がSS1で好タイムをマークするが、前週、北海道チャンピオンを決めたばかりの松波克知/尼子祥一組が0.3秒上回り、トップに立つ。松波



1. BC3クラスは宮城の佐々木浩/山口清組が快走を見せて今回最大の激戦区を制した。2. BC2の優勝候補だった上原利宏/佐瀬拓野組は3番手にとどまった。3. BC2の2位には四国から遠征の堀川竜二/池田茂組が入賞した。4.5. BC3では須藤浩志/新井正和組(5.)が2位、渡辺謙太郎/五十嵐義昭組(4.)が3位とZC33Sスイフトが表彰台の脇を固めた。



6.北海道から遠征の松倉拓郎/松本優一組は「予想したタイムは出せたので、もう少し改善して全日本でも勝負できるようにしたい」とBC4クラスで快勝。
 7.関東の細谷裕一/東駿吾組はBC4で2位入賞。8.ダートラに参戦する葛西一省/安田弘美組がBC4で3位入賞。9. BC2で8位の中田守/土橋一記組。10. BC2で6位のAronne Travaglia /須藤正人組。11. BC2で7位は菅原康広/高橋誠組。12. TRD RALLY CUPのカルロス中村/藪本啓介組はCUP2で3位。13. BC3小館優貴/福田智治組はマシントラブルに泣き、4位。14. 四国から遠征の山口英明/土居嘉嗣組はBC2で5位。15. 高田修/阿部孝子組はBC3で5位。
 16.九州から参戦の阪本幸/八尋俊一組はBC2で4位。17. 柳本弘信/星光行組はBC4で4位。18. 小館久/伴英恵組はBC3で7位。19. 伊東太寿/美細津正組がBC3で6位。20. BC3で8位は勅使川原光/伊東美紀組。21. TRD CUP2で2位の吉原将大/佐野元秀組。22. 四国から参戦した栗村浩之/古本舞桜組はTRD CUP1で優勝。23. TRD CUP2で優勝は地元東北の工藤芳文/阿部和人組。

組は続くSS2、3、4と連続ベスト。SS2で大きくタイムを落とした上原組に代わって、四国から遠征の堀川竜二/池田茂組が食らいついて7秒差で折り返した。

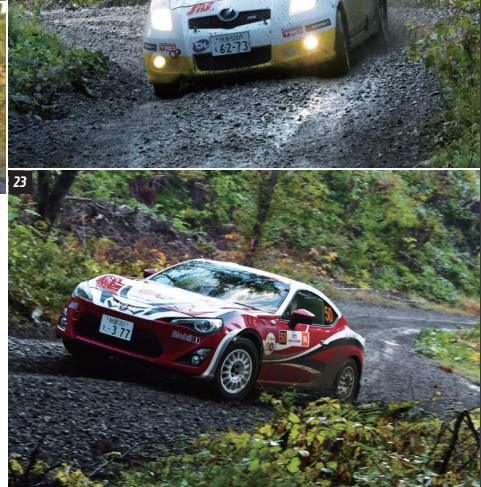
しかしセクション2に入っても松波組の速さは衰えず、SS5、SS6は再びベスト。SS7ではタイムを落としたものの、それまでのマージンが効いて、堀川組を10秒差に下して逃げ切った。オールスター2回目の挑戦で初優勝の松波選手は、「北海道にはないタイプの道だったので難しかったですね。速度域は低いんですが、道が狭いので体感速度は速い。リズムカルにクルマを運ばないとタイムが出ないので、凄く勉強になったラリーでした」と振り返った。

参加19台と今回、最大の激戦区となったBC-3クラスは、同じ宮城在住の元全日本ラ

リーチャンピオンの小野寺清之選手から教を請うた佐々木浩/山口清組のCJ4Aミラーズ組がSS1でベストタイムを奪取。セッティングテストを兼ねて参戦した全日本ドライバー須藤浩志/新井正和組のZC33Sスイフトが2番手につける。

SS2に入ると現在は関東在住ながら、東北のラリーで腕を磨いた小館優貴/福田智治組のCJ4Aがスーパーベストを奪って佐々木組を逆転。SS3は佐々木組に譲るも、SS2の再走のSS4では再びぶっちぎってトップで折り返した。

2台の勝負はセクション2に持ち込まれたため、SS6で小館組にマシントラブルが発生したため、ミラーズ対決はここで決着。佐々木組がオールスター初優勝を達成した。佐々木組に続く2位には須藤組、3位には渡辺謙太郎/



五十嵐義昭組と2台のZC33Sスイフトが続いたが、ともにセクション1の遅れが響き、逆転は果たせなかった。

年イチのラリーとして、毎年このどんぐりのラリーに出ている佐々木選手は、「小館選手とは以前から同じ東北のラリーには出てましたが、同じクラスで走ったのは初めてなんです。今日は彼の速さに感化されて踏んでしまいました(笑)。二人で、地元としては負けるわけにはいかないよね、と話してたので結果が出せて良かったです。最後まで手を抜かずに攻め抜きましたが、クルマが無事だったのが何よりです」と振り返った。

BC-4クラスでは、前回の東北開催のオールスターを制した北海道の松倉拓郎/松本優一組のデミオが8本中7本のSSでベストを奪取する走りライバルを寄せ付けず、圧勝を飾った。

24. TRD CUP1で優勝した栗村浩之/古本舞桜組。25. TRD CUP2表彰の皆さん。26. オールスターを制した松倉、松波、佐々木の3選手(左から)。27. 地区対抗戦は関東地区が優勝。準優勝が東北、3位北海道というオーダーになった。28. BC2クラス表彰の皆さん。29. BC3クラス表彰の皆さん。30. BC4クラス表彰の皆さん。

